

佳作 繋ぐいのちの尊厳



彭 继颖

PENG JIYING

国 籍 中国

職 種 介護

実習実施者 社会福祉法人中川徳生会

監理団体 PNJ 事業協同組合

最初、技能実習生として介護士の道を選んだ理由は、介護に対する熱意のみでした。現在コロナと戦う最前線で、毎日コロナ感染者の認知症患者様に触れながら、不安がいっぱいでも、その熱意は消さずに心の底に残っています。同僚はお年寄りの存在に感謝し、コロナ感染に怖がることなく、日々々生命の尊厳で仕事する姿に感動したからです。

私が働いている老人ホームでは、コロナ感染者の認知症患者様が多いです。彼らは体も動けなくて、自分の考えを言葉で明確に伝えられません。より大変なのはコロナ感染したこと自体も分かりません。先輩は「コロナに感染した認知症のお年寄りに心地良く過ごしていただくためにも、仕事が忙しい時も注意事項を守らなければなりません」と言いました。コロナ感染者の利用者様を介護する初日、恐怖心を克服しようと何度も決心をしましたが、手を止めずに震えました。ですが、同僚達は利用者様の側にしゃがみ込みながらも、優しい言葉で一人一人のお年寄りに愛情を注ぐ姿を見ました。「同僚達みたいにコロナを乗り越えよう」と思う、震えた手を止めて徐々にお年寄りの側で仕事ができるようになりまし

た。仕事が終わってから、先輩に「コロナが怖くないですか？」と聞きました彼女は「お年寄りは認知症でコロナに感染したことが分かりません。生きているだけで十分素敵だと。怖くてもできるだけ自分の力を尽くしたい」と答えました。この話を聞いて私は頑張って恐怖心を克服したと思っていたのに、利用者様の立場から考えると恥ずかしくまだまだ未熟だと思いました。

先輩の話から、利用者様の存在はすべて神様からの配り物だと思い、私達介護士は生命の尊厳を抱きながら仕事しなければならないです。私は今、介護士としての熱意と知識でお年寄りを優しく丁寧に介護していると言えるようになりました。もちろん、もう手が震える事はないです。それは、お年寄りの存在だけで私に勇気を与えてくれました。私が担当しているエリアの利用者様は、最初に言語能力や行動能力が同じ年の人よりも弱かったですが、今は積極的に交流できるようになりました。それに利用者様の家族は、「彭さんいつもありがとう、おかげで母ちゃんの体調がだいぶ良くなった」と言ってくれましたこれは介護士の私に対して最高の褒め言葉で「この仕事を選んでよかった」と感激の涙が出ました。

いったい介護士が考える生命の尊厳は何ですか？日々の細やかな介護の仕事から答えられるのでしょうか。お年寄りの人生最後の旅で自信の存在を社会の繋がりと感じ、彼らに幸せを求める能力を与えられることは、一番大切なところだと信じています。愛情と尊厳を込めた介護士になれるよう努力して、常に感謝しています。利用者様が楽しく健康で生きられるよう一生懸命に応援していきたいです。